

教育研究業績書

所属	職名	氏名
文化言語学部	教授	畠山真一

I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ・地域ボランティアへの関わりを組み込んだ授業実践 ・くずし字学習アプリ (iPhone・Android) を利用した授業	平成24年度から継続 平成28年度から継続	外国人児童への日本語指導のボランティア活動を授業に組み込みみんでいる。 くずし字学習アプリであるKuLAを利用しながら、くずし字リテラシーを育てる授業を実践している
(2)作成した教科書・教材・参考書 卒業論文演習をのぞくすべての授業で、自作のスライドを用意し、配布している。	平成19年度から	
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
(4)その他教育活動上特記すべき事項 なし		

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
なし					
(論文)					
条件的前提と様相従属	単	平成17年6月	KLS 25		370-380
語彙概念構造辞書構築のための設問セットの設計とその評価	共	平成18年4月	レキシコンフォーラム 2、くろしお出版	加藤恒昭、伊藤たかね、坂本浩との共著	57-84
高知方言のアスペクト形式と時間性に基づく動詞	単	平成19年4月	日本語科学21、国立国語研究所		65-87
動詞の限界性を判定するテストセット	単	平成20年3月	尚綱学園研究紀要A 人文・社会科学編 2		65-87
Local Satisfaction Is Not Guaranteed	単	平成21年3月	尚綱学園研究紀要A 人文・社会科学編 3		35-46
日本語表現能力育成のデザイン	単	平成22年3月	尚綱学園研究紀要A 人文・社会科学編 4		25-38
感情表出動詞の局面構造と人称制限	単	平成23年6月	筑紫日本語研究2010		11-20
熊本方言における感情を表現する動詞のシヨルとシトル形	単	平成24年3月	尚綱語文 1		25-31
感情表出動詞の人称制限と変化後の局面の二	単	平成24年3月	尚綱学園研究紀要A 人文・社会科学編 6		63-77
熊本方言におけるシヨル形の用法	単	平成25年3月	尚綱語文2		16-22
熊本方言アスペクトの再検討	共	平成25年6月	筑紫日本語研究2012	和田礼子、福田浩子、西村あいとの共著	63-72
知覚動詞「見える」と「聞こえる」の語彙的意味について	単	平成26年3月	尚綱語文3		16-24

カワイイ概念と「不気味の谷」現象について	単	平成26年3月	尚綱学園研究紀要A 人文・社会科学編 46		29-42
アメリカアニメーションにおける商業アニメーション映画というジャンルの生成	単	平成27年3月	尚綱語文4		20-28
実写映画とアニメーション作品	単	平成28年3月	尚綱語文5		15-22
アニメーション化する映画/映画化するアニメーション形式の文法化について	単	平成28年3月	尚綱学園研究紀要48		101-111
上代語の存在型アスペクト「リ」について	単	平成28年6月	KLS 36		109-120
上代語の存在型アスペクト「リ」について	単	平成29年3月	尚綱語文 6		15-22
日本語存在動詞イルの成立とシテイル形式の文法化	単	平成29年3月	尚綱学園研究紀要 A 49		29-42
(その他)					
高知方言から見た思考動詞の語彙的アスペクト	単	平成18年5月	Morphology and Lexicon		
感情表出動詞の語彙的アスペクトと人称制限	単	平成22年5月	筑紫日本語研究会		
熊本方言アスペクトの再検討	共	平成24年11月	筑紫日本語研究会	和田礼子、福田浩子、西村あいとの共同発表	
熊本方言アスペクトの再検討	共	平成25年1月	九州方言研究会	和田礼子、福田浩子、西村あいとの共同発表	
シヨル形の文法化	単	平成27年6月	関西言語学会		
静止状態維持とシテイル形式の文法化	単	平成27年9月	Morphology and Lexicon 2015		
上代語「リ形」の文法化	単	平成28年11月	日本語と近接言語における文法化ワークショップ		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動					
熊本市国際交流振興事業団初期集中日本語講座講師	平成23年10月から現在まで				
熊本・外国ルーツの子どもたち支援連絡協議会委員	平成26年4月から現在まで				